

11 Dec. 2012



第43号

JAAGA だより

日米エアフォース友好協会
Japan-America Air Force Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒162-0842 東京都新宿区市谷
砂土原町 1-2-34 KSKビル3F

編集：J A A G A 事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

ホームページ：http://www.jaaga.jp

航空総隊司令部等が横田基地に移転

5月30日（水）、航空総隊司令官齊藤治和空将及び第5空軍司令官バートン・フィールド空軍中將共催による航空総隊司令部等の横田移転記念行事が横田基地において挙行された。

講堂で実施された記念式典には、政・官界からは田中直紀防衛大臣（当時）、加藤敏幸外務大臣政務官（当時）、各幕僚長及び基地周辺首長等、協力団体・OBからは、航空自衛隊横田基地協力会、横田友好クラブ、歴代航空総隊司令官（JAAGAからは永田理事）及び歴代府中基地司令（JAAGAからは射場、糸永理事）等の本移転事業の準備、支援等に深く関わってきた約100名が参加した。JAAGAからは、吉田会長が参加した。

式典は、中部航空音楽隊と第296米陸軍軍楽隊の日米両国の国家吹奏で開始され、齊藤航空総隊司令官及びフィールド第5空軍司令官が式辞を、田中防衛大臣（当時）、カート・トン在日米大使館首席公使及び加藤外務大臣政務官（当時）が祝辞を述べた。

それぞれの式辞や祝辞の中で、横田移転の経緯、我が国を取り巻く安全保障環境の不透明性（北朝鮮のミサイル事案、中国の活動の活発化等）、4月に実施した北朝鮮ミサイルへの共同対処の成果、移転に伴う日米共同の深化及び更なる発展性、期待要素等について言及があった。

米下士官クラブで実施されたレセプションは、ファンファーレによる開宴後は、共催者挨拶、来賓祝辞等一切なく、和やかな歓談が続いた。そして、中頃に入間修武太鼓がステージに登場し、躍動感溢れる演技を披露し、また、終盤には日米の准曹士先任及び先任下士官による共同スピーチが会場を大いに盛り上げ、約1時間のパーティーは有意義に終了した。

式典には、多くのマスコミが取材に来ており、新装なった航空総隊司令部庁舎等と部隊の積極的な広報活動が印象的だった。
(糸永理事記)



LTG. Burton M. Field, (then) Commander of 5th Air Force and U.S. Forces Japan



LTG. Harukazu Saito, Commander of Air Defense Command

米空軍演習レッド・フラッグ・アラスカ参加を激励

5月25日（金）、織田、長島、山本（康）理事が航空支援集団司令部を訪れ、航空支援集団司令官彌田清空将（当時）に、5月28日（月）、永岩理事長、上田、渡部理事が中部航空方面隊司令部を訪れ、中部航空方面隊司令官石野次男空将（当時）に、それぞれ米空軍演習レッド・フラッグ・アラスカ（以下「RFA」）参加者に対する激励品を手交し、訓練の成功を祈念した。両司令官からは、「ご支援に感謝します。隊員に紹介させて頂くとともに、訓練の成功に役立たせて頂きます」旨の感謝の意が表せられた。

今年度は5月28日（月）～6月29日（金）（うち、

RFA 演習期間：6月8日（金）～6月23日（土））、航空総隊及び航空支援集団からF-15J×6機、E-767×1機、C-130H×3機、KC-767×2機、及び人員約310名が、米国アラスカ州アイルソン空軍基地及びエレメントルフ・リチャードソン米軍統合基地並びに同周辺空域等において実施された同演習に参加し、防空戦闘訓練、戦術空輸訓練及び空中給油訓練を実施した。

なお、今年度もF-15Jが本邦、アラスカ間を移動する際には、米空軍空中給油機による空中給油支援を受けた。（山本・渡部理事記）



JAAGA Dir. Orita, Nagashima and Yamamoto visited LTG. Yada (then), Commander of Air Support Command, in Fuchu AB on May 25th.



JAAGA Chairman Nagaiwa, Ueda and Watanabe visited LTG. Ishino (then), Commander of Central Air Defense Force, in Iruma AB on May 28th.



C-130H, JASDF, in Alaska



Air refuel exercise of F-15 and KC-767, JASDF, in Alaska

関東スペシャル・オリンピックスを支援

今回で33回目となる今年の関東スペシャル・オリンピックスは、6月2日（土）、例年どおり横田基地のボンク・フィールドで開催された。

第374空輸航空団任務支援群司令フリース空軍大佐が大会実行委員長を務め、開会式には、JAAGAからは、永岩理事長と阪東理事が出席した。

選手は、昨年とほぼ同規模の約250名で、“Let me win, but if I cannot win, let me be brave in the attempt.（我に勝利を、さもなくば勇気を）”の選

手宣誓に続いて競技が始まり、大きな声援が会場に響いていた。

昨年は、東日本大震災の影響で勤務上都合が付かず、陸・海・空自衛隊の准曹士の皆さんの支援が得られない中での実施であったが、今回は多くの方達の支援を受けて運営されていた。

大会運営担当者からは、毎回感謝の言葉が表されている。
（阪東理事記）



Entrance march in the opening ceremony of 33rd Kanto Special Olympics in Yokota AB on Jun 2nd.



JAAGA Chairman Nagaiwa with Col. Flees, 374th MSG Commander and Olympic Chairman.

スペシャル・オリンピックス（三沢）を支援

第26回米空軍三沢基地スペシャル・オリンピックスが、9月15日（土）、基地周辺の養護施設から約70名のアスリートを招待し、第35戦闘航空団司令兼米軍三沢基地司令スティーブ・ウィリアムス空軍大佐以下各群司令及び約300名のボランティアの参加により、基地内ハンガーで実施された。

当日は、秋晴れの33度を超える猛暑の中だったが、日米両国の国歌斉唱、聖火入場に続き、ウィリアムス基地司令の開会宣言により競技が開始され、アスリート及びパディを組んだボランティアが一体となってボール競技等を楽しんでいた。

JAAGAからは、企画

運営に山本三沢事務局長が参加するとともに、丸山三沢支部長がウィリアムス基地司令にJAAGAからの支援品を手交した。ウィリアムス基地司令からは、米空軍の活動に対するJAAGAの支援に感謝の言葉があった。
（丸山三沢支部長記）



Mr. Yamamoto, Head of JAAGA Misawa branch, and Col. Williams, 35th FW Commander, on Misawa Special Olympics on Sep. 15th



Misawa Special Olympics on Sep. 15th

SPORTEX'12A 開催



Players in SPORTEX'12-A: 76 JAAGA and USAF members, including JAAGA President Yoshida and LTG. Angelella, enjoyed the golf game in Tama Hills GC on Nov. 9th

11月9日（金）、SPORTEX'12A が米軍多摩ヒルズ・ゴルフ・コースにおいて開催された。

当日は、週初めの悪天候とは違って変って遠くに雪を頂いた富士山が見える絶好の天候となり、JAAGA からは吉田正会長をはじめ正会員及び賛助会員計61名が、米軍からは演習等で多忙な状況にかかわらず第5空軍司令官サルバトーレ・アンジェレラ空軍中将、同副司令官ジュリィ・ハリス空軍准将以下10名が競技に参加し、日米双方5名が競技の支援を行った。

参加者は午前5時前から逐次集合し、クラブハウスでの朝食、ドライビングレンジでの練習の後、6時半から開会式となった。開会式では吉田会長から英語で、「この様な晴天に恵まれ、スコアの結果を天気のせいには出来ないが、大いに日米相互のフレンド・シップを高めましょう」との挨拶があり、アンジェレラ司令官からは日本語の「おはようございます」の後、「この競技を通じて、さらに親密なリレーションシップを深めましょう」との挨拶があった。賛助会員を代表して火口内氏から英語で「スコアを気にせず、友情を深めましょう」との挨拶の後、ナイス・ショットを念じつつ7時5分を

期して、一斉に競技が開始された。

競技は、秋晴れの暖かなコンディションの下、日米友好と会員間の親善を醸しつつ和気あいあいと進行し、競技終了後は、プレーの内容を楽しく話題にしつつ昼食となった。

昼食後は、成績発表、表彰式が行われ、優勝、準優勝、第3位、ドラコン、ニアピン等各受賞者に賞品が贈られた。また、吉田会長、アンジェレラ司令官からは、それぞれ夫人の誕生日に因んで12位と16位に特別賞が贈られた。閉会にあたり、吉田会長からは「SPORTEX が盛会の内に終了したことを嬉しく思います」と述べ米軍競技支援者と多摩ヒルズ・ゴルフ関係者への御礼の挨拶があった。アンジェレラ司令官からは関係スタッフへの感謝の言葉とともに「JAAGA の皆さんの元気な様子を米国の名誉会員にも伝えましょう」との挨拶があった。午後1時過ぎ、SPORTEX'12A は和やかな中に終了し、参加者は賞品や良き思い出をいただきながら多摩ヒルズを後にした。（杉山理事記）



Party after the game, (from left) Dir. Orita, LTG. Angelella, JAAGA President Yoshida, and Adv. Hokazono

米空軍軍人の青森ねぶた祭り参加を支援

8月2日から8月7日の6日間行われた青森ねぶた祭りに、今年は8月4日（土）、米軍三沢基地から第35戦闘航空団の整備群司令シェリル・ミント空軍大佐以下米軍人及びその家族計35名が、JAAGA からは丸山三沢支部長及び山本事務局長が参加した。祭り当日は天気にも恵まれ、参加者一同は「ねぶた」囃子にあわせて「ラッセラー」の掛け声を出しながら跳ねて、日本の祭りを満喫した。

（丸山三沢支部長記）



Nebuta Festival in Aomori city on Aug. 4th: 35 American people, including Col. Minto, Commander of Maintenance Group, 35th FW, enjoyed the festival.

第5空軍司令官にアンジェレラ空軍中將が着任

7月20日（金）、横田基地において、バートン・フィールド空軍中將からサルバトーレ・アンジェレラ空軍中將への在日米軍及び第5空軍の指揮権交代式（チェンジ・オブ・コマンド）が執り行われた。

式典は10時半から横田基地第15格納庫内で行われ、政府関係者、各国駐日大使、周辺自治体の首長等、自衛隊からは統合幕僚長岩崎茂空将、航空幕僚長片岡晴彦空将以下多数の部隊指揮官、幕僚が参加した。JAAGAからは、吉田会長、香川副会長、外薗顧問、源監事、堀副理事長、阪東、菊川、長島、桃木、渡部理事、その他多数の会員が参加した。

日米両国の国歌独唱、牧師による祈祷の後、式典執行監督官である太平洋軍代理（副）司令官トーマス・コナント海兵隊中將（太平洋軍司令官サミュエル・ロックリア海軍大将の名代）及び太平洋空軍司令官ゲイリー・ノース空軍大将（当時）から、東日本大震災への対応を通じて日米同盟に貢献したフィールド中將の功績に対する賛辞と、アンジェレラ中將の活躍を期待する旨の紹介があり、フィールド中將に対して勲章の授与が行われた。

フィールド中將は、「最もやりがいのある任務を全うできたのは皆さんのおかげです」と流暢な日本語で感謝の意を述べた後、「東日本大震災における対応と復旧を通じて、日本の国民と政府は自衛隊によって支えられている事、在日米軍の速やかな召集状況によりコミットメントの再確認ができた事、被災者と支援者を通じて日本の心を理解できた事等、多くを学ぶことができました。また、航空総隊司令部の横田移転直後の北朝鮮のミサイル事案では、緊密な日米共同運用を実際に確認することができました。一方で日米同盟には論理的かつ客観的な理解が必要であるとの課題も認識しています」と所感を述べ、「ここにいらっしゃる皆さん全員に感謝します。在日米軍全隊員の仕事と成果、勤勉さに感謝します。家族に感謝します」と締めくくった。

フィールド中將への部隊の最後の敬礼の後、同中將から在日米軍司令官旗がコナント太平洋軍副司令官に、第5空軍司令官旗がノース太平洋空軍司令官（当時）に渡され、それぞれをアンジェレラ中將が受け取り、指揮権が継承された。

新司令官アンジェレラ中將からは、「日本の勤務は5回目であり、子供は日本で高校生活を送りましたが、やらねばならない事はたくさんあり、再度空軍チームの一員として勤務できることを光栄に思います。宜しくお願いします」との挨拶があった。

アンジェレラ中將への部隊の最初の敬礼が行われた後、アンジェレラ中將の名前が記された第5空軍司令官機（F-16）が披露され、約1時間に亘る式典は終了した。式典終了後、将校クラブにおいてレセプションが行われた。

アンジェレラ中將は、米空軍士官学校1981年卒業の戦闘機パイロットで、最初の日本勤務は三沢基地の第35戦闘航空団第13戦闘中隊。その後、クウェート、米国の航空団勤務を経て、第35戦闘航空団司令を務めた。直近の日本勤務は第5空軍副司令官。飛行時間は182時間の実戦飛行を含む約3,100時間。

フィールド中將は、現在、空軍司令部 A3/A5 としてワシントン DC の国防総省で勤務している。

（渡部理事記）



LTG. Thomas L. Conant, Deputy Commander of U.S. Pacific Command (left) and LTG. Salvatore A. Angelella, new commander of 5th Air Force and U.S. Forces Japan (right)



LTG. Salvatore A. Angelella

太平洋空軍司令官にカーライル空軍大將が着任

8月2日（木）、太平洋空軍司令官の交代式が、ハワイのヒッカム空軍基地で、米空軍参謀長ノートン・シュワルツ空軍大將（当時）、太平洋軍司令官サミュエル・ロックリア海軍大將出席のもと厳粛に行われた。

デイリー・ノース空軍大將は退役し、新太平洋空



GEN. Norton A. Schwartz (then), ADM. Samuel J. Locklear III, GEN. Herbert J. Carlisle and GEN. Gary L. North (then)

軍司令官にはハーバード・カーライル空軍大將が着任した。カーライル大將は第13空軍司令官、空軍参謀本部 A3/A5 を経て着任した知日派で、太平洋地域に造詣の深い将軍である。JAAGA からは吉田会長夫妻、外蘭顧問夫妻が来賓として式典に参加した。（吉田会長記）



Reception of new commander of Pacific Air Forces : GEN. Carlisle and his wife (center), JAAGA President Yoshida (right) and Advisor Hokazono (left) and their wives

第374空輸航空団司令にオーガスト空軍大佐が着任

6月29日（金）、第374空輸航空団司令兼米空軍横田基地司令の着任式が第5空軍司令官バートン・フィールド空軍中將（当時）を執行官として米空軍横田基地の第15格納庫内で行われた。

航空自衛隊からは、航空総隊副司令官秦啓次郎空将、航空総隊司令部幕僚長石野貢三空将補（当時）、同防衛部長山田真史空将補、防空指揮群司令日吉章夫1等空佐並びに中部航空警戒団司令（入間基地司令）國分雅宏空将補（当時）等が参加した。JAAGAからは高橋、新井理事が参加した。

式は日米両国の国歌独唱に始まり、フィールド中將から、離任する第374空輸航空団副司令ウィリアム・ナイト空軍大佐（前第374空輸航空団司令兼横田基地司令オットー・フェザー空軍大佐は今年3月に退役）の第374空輸航空団副司令として、米軍横田基地司令としての実績とリーダーシップに対する賛辞が述べられ、着任するマーク・オーガスト空軍大佐への激励の挨拶があった。その後ナイト大佐に対し勲章が授与された。

ナイト大佐の離任の挨拶は、自身が直接かかわった東日本大震災後の“トモダチ作戦”を通じての日米の絆に関する言及が多くあった。ナイト大佐の挨拶

を聞きながら、在日米空軍に対する感謝の念を改めて感じた。その後、指揮官旗の引継ぎによる指揮権継承の儀式が執り行われた。



Reception of new commander of Yokota Air Base : Col. August and his family, JAAGA Dir. Takahashi and Arai.

引き続きオーガスト大佐の着任の挨拶があり、格納庫前に駐機した指揮官機 C-130 にオーガスト大佐の名札が付け替えられ無事式典が終了した。式典の後、将校クラブにてレセプションが行われ、新団司令オーガスト大佐と親しく歓談することができた。オーガスト大佐は、飛行時間3,000時間以上を有する C-130 の上級操縦士で、夫人と息子2人、娘2人の6人家族。子供達は「是非来たかった日本に來られてとても嬉しい」との事だった。

（新井理事記）

第35戦闘航空団司令にウィリアムス空軍大佐が着任

米空軍第35戦闘航空団司令の指揮権交代式が、9月4日（火）、米軍三沢基地内格納庫内で第5空軍司令官サルバトーレ・アンジェレラ空軍中將により執行され、指揮権はマイケル・ラスティーン空軍准将からスティーブ・ウィリアムス空軍大佐へと継承された。

交代式には米第5空軍隷下の航空団司令等をはじめとして在三沢米空軍、米海軍、米陸軍関係者、北空司令官若林秀男空将以下在三沢空自各部隊長等、三沢市関係者等多数が出席した。JAAGAからは吉田会長夫妻、丸山三沢支部長夫妻、山本三沢事務局長夫妻が出席した。式典は、連日の猛暑にもかかわらず、北空音楽隊による日米両国の国歌演奏後、粛々と執り行われた。



Ceremony of change of command : LTG. Angelella (left), Col. Williams (center) and BG. Rothstein (right).

式典に先立つプレ・レセプション、式典後の歓迎レセプションが将校クラブで行われ、それぞれ新旧団司令と歓談して交流を深めることができた。

（丸山支部長記）

ラスティーン空軍准将の送別会に参加



BG. Rothstein (left) and Mr. Yamamoto, Head of JAAGA Misawa branch

第35戦闘航空団司令マイケル・ラスティーン空軍准将（当時）の送別会が、8月28日（火）18時30分から米空軍三沢基地東北クラブで、基地所在米空軍、米海軍関係者、北空司令官若林秀男空将以下在三沢空自部隊長等、及び三沢市長をはじめとする三沢市関係者約200名が参加して盛大に行われた。JAAGAからは、丸山支部長夫妻と山本事務局長夫妻が参加した。連日の猛暑で当日のドレス・コードは、ゴルフ服装と指定され、ラスティーン准将はゴルフ・カートで入場し、出席者は和やかに立食形式で歓談していた。特に、東日本大震災における米軍の“トモダチ作戦”への感謝が各所で聞かれた。

（丸山三沢支部長記）

横田基地米国独立記念祭に参加

横田基地において、アメリカの独立記念日を祝うイベントが7月4日（水）に行われた。

ここ数年、基地の15番格納庫内に来賓専用特設エリアが設けられている。6月29日に第374空輸航空



JAAGA members and their wives with LTG. Saito, LTG. Hata and Col. August, Commander of Yokota AB, on Independence Day.

団司令となったマーク・オーガスト空軍大佐にとって着任早々のイベントとなった。前第374空輸航空団司令オットー・フェザー空軍大佐が、「私の後任はオーガスト大佐で、オーガスト（秋）に着任します」と送別の折に話していたが、着任の時期が少々早まったようだ。オーガスト大佐は夫人、4人（男2、女2）の子供達と共に特設エリアの脇に出て日本の雰囲気にも慣れようとしているようだった。

航空総隊司令部等が横田基地に移転し、これから多くの面で入間、府中、立川の各基地も含め、日米の交流も新しい局面を迎えて行くことだろう。

JAAGAからは、阪東、桃木理事、山岡会員が参加した。

（阪東理事記）

横田基地フレンドシップ・フェスティバルに参加

横田基地フレンドシップ・フェスティバルが、8月18日（土）、19日（日）の2日間にわたり開催された。

米軍機は、F-22ステルス戦闘機をはじめ、F-15、F-16、A-10、FA-18、C-17、C-130H、C-12J、HH-60、UH-1等々、自衛隊からは、F-15、F-2、RF-4、U-4、T-4、E-2C、C-1、P-3C、AH-1等々、また韓国から飛来した

U-2偵察機のデモ飛行も加わって賑やかさを醸し出していた。

18日（土）の午後には、航空機格納庫に設営された会場において第374空輸航空団司令兼横田基地司令マーク・オーガスト空軍大佐主催のレセプションが催された。オーガスト大佐夫妻が招待者それぞれを丁寧に迎えていたのが印象に残った。第5空軍司令官サルバトーレ・アンジェレラ空軍中將も開宴



Japanese-American Friendship Festival in Yokota.



JAAGA members and their wives with LTG. Saito and LTG. Angelella.



"BONODORI" by TANABATA dancers of Yokota AB.

から顔を出し、旧知のみならず新しい親交も深めていた。航空総隊司令官齊藤治和空将、同副司令官秦啓次郎空将、同司令部幕僚長國分雅宏空将補、同防衛部長山田真史空将補、防空指揮群司令日吉章夫1等空佐、航空気象群司令（府中基地司令）鶴園和男1等空佐、第1補給処立川支処長（立川分屯基地司令）半澤弘和1等空佐の顔も見られた。

「日頃の訓練成果の一端を展示できることが我々相互の信頼に繋がる」とのオーガスト大佐の挨拶と共に格納庫のドアがいっぱいに開かれ、しばらくして上空に進入してきた2機のC-130輸送機から在沖縄米陸軍部隊1個小隊29名の空の神兵が舞い降りてきて会場の雰囲気盛り上げた。

あいにく朝から小雨模様であったが午後には晴れ、米側、日本側共にそれぞれが「晴れ男」、「晴れ

女」と威張れるハッピーな日になった。

今年からチーム横田の一員となった航空自衛隊は、日吉防指群司令をはじめ全隊員が友好祭の中の一つのイベントとして「納涼盆踊り」を企画し、友好祭を盛り上げていた。盆踊り会場は格納庫横に設置され、18日（土）1750から十条基地所属の「よさこい十条燦舞隊」がオープニングを飾り、会場では友好祭に来た市民、米軍及び航空自衛隊の隊員が一緒に盆踊りを楽しんだ。また途中で百里基地エイサー部が沖縄の盆踊りであるエイサーを踊ったり、米軍横田基地の女性で構成されたTANABATAダンサーズの踊りが披露され大きな喝采を浴びていた。あっという間の2時間だった。

（阪東・桃木理事記）

横田基地エア・フォース・ボールに参加

米空軍誕生65周年を祝う横田基地エア・フォース・ボールが、9月15日（土）に米空軍横田基地司令マーク・オーガスト空軍大佐主催で実施された。

会場正面に向かった来賓席の大きなテーブルには日米の主要メンバー並びに周辺市町代表の面々が顔を並べ、日米が同じ基地に所在することとなり、これまでとは異なった雰囲気となっていた。

日米両国の国旗入場と国歌斉唱でセレモニーが幕を開けた。ゲスト・スピーカーの第5空軍司令官サルバトーレ・アンジェレラ空軍中将のスピーチでは、総隊司令部と基地を同じくして勤務を始めたことの意義、及びJAAGAの各種活動に対する感謝に始まり、終わりは「有難う、有難う、Thank You, Thank You Airmen, Happy Birth Day.」と会場にいる将兵とその家族に向かって感謝の意を表するものだった。

現在のように米軍人将兵や日本人の来賓等を一堂



JAAGA Dir. Bando and his wife with commanders and their wives in Air Force Ball, Yokota AFB on Sep. 15th

に会するエア・フォース・ボールのスタイルになってかれこれ10年が経つが、日米の絆を支えているこのような色々な行事にも変化が起こりつつあることを感じながら夕べのひと時を過ごした。

（阪東理事記）

JAAGA 会員の横田基地研修

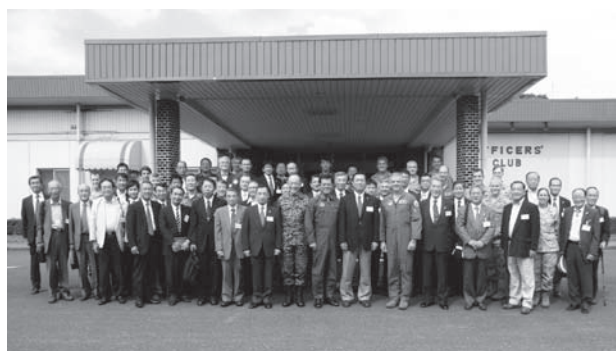
恒例の JAAGA 横田基地研修が 9 月 26 日（水）実施された。吉田正 JAAGA 会長を研修団長とする総勢 41 名（正会員及び賛助会員 36 名、JAAGA 理事 5 名）が、午前 9 時半、福生駅での結団式の後、秋晴れの下、米軍バスで横田基地に向かった。今回は航空総隊司令部が横田基地に移転後初の基地研修であり、日米双方の司令部を訪問出来ることに関心が集まった。

まず第 5 空軍司令部を訪問し、副司令官ジェリー・ハリス空軍准将の出迎えを受け、第 5 空軍の概況説明と司令官サルバトーレ・アンジェレラ空軍中将のウィットに富んだ講話で北東アジアの安定にとって同空軍の果たす役割を理解した。

その後、オフィサーズ・クラブで米軍側は第 5 空軍司令官アンジェレラ空軍中将、同副司令官ハリス空軍准将、第 374 空輸航空団司令マーク・オーガスト空軍大佐等、空自側は航空総隊司令官齊藤治和空将、同副司令官秦啓次郎空将、同司令部幕僚長國分雅宏空将補、同防衛部長山田真史空将補、防空指揮群司令日吉章夫 1 等空佐等と、まさに日米の基地の主要メンバーが出席し、JAAGA 主催の昼食会が開かれた。日米双方の司令官から JAAGA の横田基地訪問に対する歓迎の言葉とともに、JAAGA の諸活動への謝辞があった。この両司令官の挨拶や会食中の懇談を通じて、米空軍と空自の関係が極めて緊密かつ信頼感溢れるものになっていると感じた。

午後から第 374 空輸航空団司令兼米軍横田基地司令のオーガスト大佐の挨拶及び概況説明、基地内バス・ツアー及び第 36 空輸飛行隊での C-130 型機見学が実施された。米国内の街並み然とした PX、映画館、レストラン等の施設、グローバルな米軍空輸網の拠点機能としての航空機や各種施設を見聞し、米軍横田基地の重要性を実感した。

15 時には新設されたばかりの総隊司令部庁舎に到着、秦副司令官の出迎えを受け、新装のエントランス・ゾーンで航空総隊のエンブレムを背景に齊藤司令官を中心に研修団の記念撮影が実施された。庁舎見学の後、秦副司令官及び山田防衛部長から日本の航空防衛力発揮の中核である同司令部の任務・機能等についての説明を受けた。各研修者の航空総隊司令部の活動に対する関心は高く、質疑応答は予定時間をオーバーしそうになるほど密度の濃いものとなった。



JAAGA tour group with USAF and JASDF members



JAAGA President Yoshida handed a gift to LTG. Angelella, Commander of 5th Air Force.

熱気溢れる質疑応答の後、航空総隊司令官主催のバーベキューが司令官官舎に隣接した広場で行われた。残念ながら齊藤司令官は公務のため不在となったが、秦副司令官がホストとなり、昼食会と同様にアンジェレラ中將をはじめ日米双方の主要幹部が一同に会すなか JAAGA 役員 6 名もあらたに加わり盛大な日米合同の宴となった。日本での生活、家族、ゴルフ等の趣味等、夕闇迫る横田基地での懇親のバーベキューは大変盛り上がり 18 時の御開きの合図も名残惜しく感じられた。

吉田会長から「本日の研修で日米両司令部の関係が緊密であることに意を大変強くした。総隊司令部の横田移転に係る構想から始まり、長期にわたる準備期間に御理解と御協力を頂いた歴代第 5 空軍司令官等関係各位に敬意を表したい」との挨拶があり、米空軍と空自へ感謝を表しつつ横田基地研修を終了した。（杉山理事記）

米空軍士官学校交換留学生のホスト・ファミリーに



Mr. Tsukihashi, Vice President of Japan Defense Academy, handed the commission to a host family of JAAGA.

9月28日（金）午前11時から防衛大学校において、本年度、米空軍士官学校から派遣された3名を含む交換留学生のホスト・ファミリーに対する委嘱状授与式が行われた。当日は、国分学校長不在のため、月橋副校長からJAAGAボランティアとして参加した桃木、渡邊両理事及び古屋会員の3名に対して委嘱状が手渡された。ホスト・ファミリーを委嘱された3名は、米国勤務や留学の経験を有する防大20期の同期生である。

留学生は、ジョシュア・ハーニッシュ、タイ・フェリッチ、テレサ・キム（女性）の3学生で、日本滞在期間は8月末から12月中旬までの4ヶ月弱である。

授与式の後、学生食堂横の職員食堂において、我々と3名の留学生が初めて対面し、昼食を共にし

た。3名とも日本語に堪能で、食事中は終始英語よりも日本語での会話が弾み、お互い一気に打ち解けることができた。彼らは日本食にも慣れており、特に寿司や刺身が大好きとのことであったが、異口同音に「納豆だけは・・・」と言っていた。

食事の後、防大学生舎を見学した。最も新しい第1大隊の居室を見せてもらったが、生活空間の広さと生活様式は、30数年前卒業の我々には、隔世の感があった。試験期間中であつたため、昼休みにもかかわらず、多くの学生が机に向かい試験勉強に勤しんでいた。

午後は、彼らが他国からの留学生と共に受講している日本語の授業を見学した。欧州や東南アジアの留学生より、彼らは日本語に精通しているようで、グループ作業では指導的立場で活躍している姿を目にすることができ、頼もしく感じた次第である。

彼らの滞在中に東京研修（見学）を計画している。特に江戸文化や下町の風情を少しでも体感してもらうべく、現在研修先を吟味しているところである。また、彼らが大好きな日本の食文化にも接する機会を是非とも設けたいと考えている。

我々3名は、本JAAGA留学生支援プログラムが、彼らの留学経験をより有意義なものとし得るよう、引き続き努力する所存である。

（渡邊理事記）



Host families talked with JDA staff after the ceremony.



JAAGA host families with 3 cadets of USAF Academy at the 1st cadets' battalion of JDA

フィールド空軍中將が JAAGA 名誉会員に

6月19日（火）、明治記念館において、第5空軍司令官兼在日米軍司令官バートン・フィールド空軍中將（当時）に吉田会長からJAAGA名誉会員への委嘱状を授与した。本行事には、永岩理事長、堀副理事長、長島、森下理事が同席した。

この日は、フィールド中將への叙勲伝達式があり、統合幕僚長、航空幕僚長共催の叙勲祝賀レセプションが開催され、委嘱行事はこれに先立ち実施された。

本行事は、リサ夫人、息子のデビッド・フィールド空軍大尉も同席し、統合幕僚長岩崎茂空将夫妻、航空幕僚長片岡晴彦空将夫妻が見守る中、行われた。最初に吉田会長が、「フィールド中將をJAAGAの名誉会員に委嘱します。名誉会員は、フィールド司令官で丁度10人になります」と述べ、委嘱記念の盾がフィールド中將に贈られた。

フィールド中將は、「JAAGAの名誉会員になることを大変光栄に思います。また、10人目という区切りの良い数字にも嬉しく思います。これまでも先輩方が名誉会員として、JAAGAの皆さまと様々な

活動をされていることは承知しています。私も今後とも吉田会長を始めJAAGAの皆さん、そして航空自衛隊の皆さんと更に友好・友情を深め、日米関係の深化に努力していきたいと思います。」と述べた。

その後、祝賀会が盛大に行われたが、フィールド中將はその挨拶の中でも、JAAGAに対する感謝の言葉を述べた。
（森下理事記）



Commission ceremony of JAAGA honorary member for LTG. Field at Meiji Memorial Hall on June 19th

「つばさ会・JAAGA 訪米団」AFA 総会参加等報告

平成24年度の「つばさ会・JAAGA 訪米団」は、吉田正 JAAGA 会長を団長として、永岩同理事長、堀副同理事長、森下同理事の計4名で9月9日（日）～21日（金）、ワシントン DC での米空軍協会（AFA, Air Force Association）年次総会への参加に併せて太平洋空軍司令部（ハワイ州ホノルル）、教育訓練空軍司令部、第24空軍（以上テキサス州サンアントニオ）、国防総省、日本大使館（以上ワシントン DC）を訪問し意見交換を行った。それぞれの訪問先において、日本での勤務経験のある米空軍現役高官やJAAGA名誉会員である歴代第5空軍司令官等との旧交を温めるとともに、多くの現役高官やAFA会長等との活発な意見交換、交流の実施を通じ、日米空軍相互間の信頼の絆を更に深めるとともに、米空軍の現状と将来の動向を把握することができた。

7月末に太平洋空軍司令官に着任したばかりのハーバード・カーライル空軍大將は、第13空軍司令官、空軍司令部の3／5部長等の要職を経ての就任であり、太平洋地域の情勢や我が国の作戦環境、日米の連携要領等に熟知しているとともに親日家でもあり、司令官の計らいで、心のこもった温かなもてなしを受けた。



Meeting of JAAGA delegation and GEN. Herbert Carlisle, Commander of Pacific Air Forces, and his staff

太平洋空軍司令部では、カーライル司令官を表敬し、懇談。その後場所を移し、太平洋空軍の任務や現況、将来の方向性等について司令官自ら実施するブリーフィングを受けた。意見交換では、西太平洋地域とりわけ日本南西海域の情勢認識、空自と米空軍の連携、米軍戦力の再均衡（リバランス）、エア・シー・バトル構想の進捗状況、サイバー戦等について活発な意見交換が行われ、空自と米空軍間は緊密な連携を維持し極めて良好な関係にあり、総隊司令部の横田移転が更なる強化に貢献している。他方、第13空軍は廃止されるが、その所掌任務は太平洋空軍司令官が担うことになり、横田のデタッチメントは第5空軍に吸収されることから、現状と大きな変化はないことを確認した。着任早々の連絡幹部谷川2佐と、能勢2佐から、積極的かつ綿密な事前調整や滞在間のきめ細やかなエスコートなど献身的な支援を受けた。

12日（水）は、朝5時に宿舍を出発。7時にホノルルを離陸し、ロサンゼルス空港経由でサンアントニオ空港に午前1時過ぎに到着。宿舍に入ったのは2時過ぎと、5時間の時差を考慮してもかなりの強行軍だった。

翌13日（木）、教育訓練空軍司令部にJAAGA名誉会員である同司令官エドワード・ライス空軍大將を表敬し、親しく懇談した。その後、約7万人の人員と約80億ドルの予算を擁し、年間約3万4千人のリクルート、新隊員教育（BMT, Basic Military Training）、年間約27万5千人の術科教育、そして飛行教育、空軍大学での教育まで、米空軍のみなら



JAAGA members with GEN. Edward Rice, a JAAGA honorary member, commander of Air Education and Training Command

ず他の軍種や同盟国や友好国の人員を対象に、世界規模で任務を遂行する巨大な教育訓練組織について説明を受けた。空軍の精強性の根幹は教育訓練にあり、教育訓練空軍こそ1st COMMANDとの認識の下、予算削減の中でも、より効果的・効率的でハイレベルの教育訓練を目指し、部隊指導している様子が伝わってきた。次に、第37訓練航空団司令部と国防省言語研究所（DLI）／英語センター（ELC）でブリーフィングを受け、それぞれの教育の現状を把握することができた。新入隊者の平均年齢は約20歳で26％が大学経験者、女性は約20％、マイノリティーが約1／3ということであった。また、RQ-4、MQ-1、MQ-9等のRemotely Piloted Aircraft（RPA）のパイロット及びセンサー・オペレーター等の養成を担当する第558飛行隊を訪問し説明を受けるとともに、シミュレーターを見学・経験した。有人機の操縦経験のないパイロットの養成も含め、極めて効率的に実施されていた。

同じ基地に所在する米空軍のサイバー専門コマンドである第24空軍司令部の訪問は、今回、特にリクエストして実現することができた。サイバーは近年、米空軍が重要視する分野であり、隷下に第67ネット・ワーク戦団、第688情報作戦団、第689戦闘通信団等を有する、人員約1万7千名規模の部隊である。その任務は国防総省のネット・ワークの内、空軍部分のサイバー運用を担当し、統合作戦を成功裏に遂行するために資することである。サイバー戦には平時・有事の境目がなく日常的に厳しい凌ぎあいが継続しており、サイバー空間における圧倒的な優勢を確保するために、自動化した、弾力性のあるネット・ワークの構築等、更なる能力向上を図っている。

夜は、ライス司令官に、ホワイト・ハウスと呼ばれている基地内の官舎に招待され、テキサス在住のヘスター元司令官も交え楽しく会食・懇談した。官舎には家具やこけし等の日本グッズが多数飾られていた。部隊訪問間、ライス大將が終始同行する等、司令官のつばさ会・JAAGAに対する配慮と親日の強さが伝わってきた。

また、連絡幹部の桑田3佐の調整で、学生がお世話になっているサコ夫妻や入校中の学生等と夕食を共にし、米国の生活、英語に関する苦労話を聞く等、交流・激励の機会を持った。

ワシントン DC では、AFA の年次総会に参加し、代表委員長や会長等と懇談し、日米間の今後の交流のあり方等について意見交換した。総会は将官から下士官に至る現役・退役軍人、政府関係者、軍事産業関係者など3日間で約6,000人が参加して催された。米空軍参謀長に8月に着任したばかりのマーク・ウェルシュ空軍大将のスピーチで幕を開けた今年の総会では、空軍創設65周年を記念し65のセッションが設けられ、幅広いテーマで活発な意見交換が行われていた。また、5万平方フィートの展示場では50を超えるブースに先進搭載装備品やサイバー関連装備品、F-35関連武装等、最新技術が展示されていた。

国防総省においては、空軍司令部のA2部長のラリー・ジェームス空軍中將（元第5空軍副司令官）、A3/A5部長のバートン・フィールド空軍中將（前第5空軍司令官）、統合参謀本部J5副部長のアンソニー・ロック空軍少將を訪問し、アジア太平洋地域の最近の軍事情勢等について説明を受け、意見交換を実施した。

また、日本大使館に藤崎大使（当時）を表敬訪問し、最近の日米関係に係る意見交換に加え、日本在住経験者で構成された「米軍アルムナイ」の活動の活性化についても意見交換した。大使には、忙しい中、温かく迎えて頂いた。

さらに、訪米団の大きなプログラムの一つがJAAGA 名誉会員との交流である。今年はマイヤーズ元大将夫妻、エバハート元大将夫妻、ヘスター元大将夫妻、ライト元中將夫妻に加え、ライス大将夫妻がテキサスから、フレーザー大将（南方軍司令官）がフロリダから参加してくれ、旧交を温めるとも



JAAGA delegation with Ambassador Ichiro Fujisaki (then) at Embassy of Japan in the USA.

に、情勢変化に関わる情報交換を含め、とても楽しく和やかなひと時を過ごすことが出来た。特にエバハート夫妻には、訪米団の受け入れ準備での尽力に加え、皆さんを自宅のホームカクテルに招くなど、一方ならぬお世話になった。

今回の訪米に係る米軍との綿密な調整とワシントン滞在間の様々な支援に関し、在米日本大使館防衛駐在官引田将補と斎藤2佐には、多大なご尽力を頂いた。

今回の訪問を通じ、国家間の信頼関係の醸成には、緊密な人間関係の構築が極めて重要であり、これまで先輩たちが築いてこられた日米空軍種間の信頼関係の絆の強さを再認識するとともに、更に新たな相互信頼関係の構築に努力していく必要性を強く感じた。

終わりに、今次の訪米に際して協力、支援を頂いた関係各位に対し、本紙面を借りて心より感謝申し上げます。（森下理事記）



JAAGA delegation with AFA main members at AFA general assembly.



JAAGA delegation with JAAGA honorary members and their wives

「津曲義光先輩を偲ぶ会」に出席して

7月19日（木）1830から、グランド・ヒル市ヶ谷において元航空幕僚長故津曲義光氏を偲ぶ会が、故人を慕う約300名近くの知己を集め盛大に催された。

故津曲氏は平成22年5月～23年11月まで第7代JAAGA会長を務めており、JAAGAからも吉田会長他、多数の会員が出席した。参列者の中には、多忙な中、故人が航空幕僚長時代に防衛庁長官であった石破茂衆院議員や、防衛大学校の後輩でもある佐藤正久、宇都隆両参院議員の姿も見られた。会場には中央に故人がにこやかに笑っている大きな写真が飾られた祭壇が設けられ、到着後出席者は次々に遺影と対面し献花を捧げた。

会は黙祷に続いて、発起人を代表して元補給本部長茶木哲義氏が挨拶に立ち、「先輩が昨年11月27日に亡くなられてから、早や8ヶ月が過ぎようとしています。以来、地元福岡で執り行われた葬儀に参列できなかった方々等から故人を偲ぶ機会を持ちたいという多くの要望があり、本会を開催することになりました。まさしく、先輩の生前のご功績に対する感謝の証であり、人徳の賜であると思います。本日は先輩の人柄を踏まえ、明るく楽しい語らいの場にしたいと思います」と述べた。

次に、故人を最もよく知る先輩として元補給本部長吉川武秀氏（防大8期）が、同期生を代表して元海上幕僚長古庄幸一氏（防大13期）が追悼の辞を述べた。吉川氏は故人と同じく航空機整備幹部として、同じ職場で上司、部下として勤務した経験があり、開口一番「本日は彼のいい所も悪い所も一緒に偲ぶ会にしたい。そうでなければ、彼があの世界で大きな顔をして私を出迎えることになる」と述べ、会場を笑いの渦に巻き込みながら、故人の愛した酒をめぐる話等を披露し、最後に故人に報いるため後輩の諸君は頑張って欲しいと話を締めくくった。古庄氏は、「故人と同時期（故人は空幕長）に海幕長として勤務した際、長官の所に行くときはよく事前に打ち合わせをし、つくづく同期のありがたさを感じました。これほど多くの先輩、後輩が集まったのも故人の人徳のなせる技であり、大変すばらしいことだと思います」と述べた。

その後、発起人副代表の元航空支援集団司令官永岩俊道氏の発声で故人に献杯を捧げ、しばし歓談の

時間となった。その間にも、故津曲氏と縁の深い方々が次々と壇上に立ち、それぞれの記憶の底に眠る思い出話や秘話を大いに語り、会場は故人が今にもどこからか現れてきそうな雰囲気包まれていた。また、一歌会会長石橋一歌先生、竜笛（横笛）逢坂竜信先生により、元技術研究本部航空開発官奈良信行氏が故人を偲んで作った漢詩「巨星落つ」が祭壇の前で切々と吟じられた。

終わりの時間も押し迫ってきた頃、ご遺族を代表して奥様が挨拶に立ち、途中声を詰まらせながらも「盛大な会を催して頂いた事に、お礼を申し上げます。（故人が）亡くなって8ヶ月近くになりますが、未だ信じられない思いがあり、本人が今にもひょっこり帰ってきそうな気がする時があります。本日は多くの方から思い出話を聞かせていただき、家族一同心なむ思いが致しました。主人は賑やかなことが大好きでしたので、この会のことをきっと喜んでいることと思います。生前からのご厚誼に対し、改めて感謝いたします」と感謝の言葉が述べられた。最後に、本会の実行委員長、元補給本部長浦山長人氏が挨拶に立ち、会への参集のお礼を述べた。

約2時間半に及ぶ「津曲義光先輩を偲ぶ会」は、故人に対する哀惜の念の中にも、深い敬意と終始笑いのある心温まる会であった。参列者は改めて故人の遺徳を偲び、それぞれの思い出を胸に会場を後にしたと思う。（古畑理事記）



Portrait of the expresident of JAAGA late Tsumagari at the memorial ceremony on July 19th

新入会員紹介

1 正 会 員

氏 名	住 所	氏 名	住 所
彌 田 清 氏	茨城県取手市	藤 田 信 之 氏	東京都福生市
岩 切 成 夫 氏	東京都八王子市	谷 村 俊 宏 氏	東京都小平市
小野田 治 氏	埼玉県入間市	米 沢 敬 一 氏	福井県鯖江市
森 田 公 治 氏	埼玉県戸田市	狩 集 貴 尚 氏	東京都立川市

2 個人賛助会員

氏 名	住 所	氏 名	住 所
長 瀬 正 人 氏	東京都世田谷区	Peter Notarianni 氏	東京都中央区
平 井 幹 廣 氏	神奈川県横須賀市	渡 辺 浩 行 氏	東京都福生市
岩 井 克 文 氏	東京都大田区	山 本 正 敏 氏	石川県小松市
藤 原 秀次郎 氏	神奈川県横須賀市	上 出 雅 彦 氏	石川県能美市
Armington Jim 氏	東京都港区	清 水 道 生 氏	東京都福生市
Gerard Lawless 氏	東京都港区		

会 員 募 集

今期は関係各位のご努力で正会員8名、個人賛助会員11名合計19名の入会を得ることができました。会勢拡張目標を正会員300名、個人賛助会員50名、法人賛助会員50社と定め精力的に活動しておりますが、正会員数が244名（24. 11. 27現在）と目標にはるかに至っておりません。

今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、個人会員の入会につきましては、次のとおりです。

推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当係から連絡させていただきます。

【入会資格】

正 会 員：航空自衛隊のOB

個人賛助会員：航空自衛隊のOB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

【連絡先】

○郵便 〒162-0842 新宿区市谷砂土原町1-2-34 KSKビル3F
日米エアフォース友好協会 会員担当 行

○（会社）メール、電話

石渡 幹生：m-ishi@shimadzu.co.jp	03-3219-5638
松田 和彦：kazuhiko_matsuda@mhi.co.jp	03-6716-4433
金子 康輔：kkaneko@mpcnet.co.jp	03-5531-8061
美馬 博：h-mima@zp.jp.nec.com	03-3353-9720
木村 孝：t-kimura@fq.jp.nec.com	03-3456-9762

編 集 後 記

◇43号は、航空自衛隊の宿願叶った航空総隊司令部等の横田基地移転記念式典を第1面記事とし、カラー版としました。以下、米空軍主要指揮官の交代、過去半年間のJAAGAの活動を掲載しています。今号を通じて、改めてJAAGAの活動が空自と米空軍の友好親善の礎になっていることを認識して頂ければ幸いです。JAAGAだより編集員一同、今後もJAAGAの活動を地道にフォローしたいと思いますので、会員の皆様のご支援をよろしくお願い致します。

◇だより43号の発行にあたり、改めて津曲前会長のご功績に敬意を表するとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。（編集子）